

支援の手だてリスト(具体例)

		④ 説明を聞いて答えよう	
		聞いた内容を理解し記憶しておいて、必要とされる情報を取り出す力	
		全体への支援	より個別的な支援(教材の工夫など)
1	目標・ねらい 学習の評価	1) ・活動内容を具体的に示す ・児童生徒を主語にして「～する」「～できる」という表現にする ・一つの目標には二つ以上の内容を入れない 2) ・板書や紙に書くなどして、児童生徒が見て分かるように提示する 3) ・まとめの時間に授業の振り返りを必ず行う	1) ・振り返りシートなどを活用し、目標やねらいについての自己評価をさせる ・言語化が難しい児童生徒の場合は、項目を示し、○×でチェックさせる 2) ・シールなどによるポイント制を利用する
2	授業の構成	4) ・授業の課題、作業の進め方、流れを小黒板やカードなどで提示する ・学習の始まりと終わりを明確に提示する ・学習の流れを示したカードを準備し、確認させながら授業に臨ませる ・学習の変わり目に、声かけをして注意を喚起する 5) ・指示や話の内容について児童生徒に復唱させる 6) ・話す内容について予告する。多くの視覚情報がある場合は、大切な箇所に注目させてから話す ・言葉やヒントなどを与えながらポイントを整理して説明する	4) ・授業の流れを示したカードをあらかじめ用意しておく 1 教科書を読む 2 一人で問題を解く 3 グループの話し合い 4 グループ発表 5 まとめ
3	学習のルール	7) ・「聞いてください」と言ってから話す、聞き漏らしたら「もう一度言ってください」と言うなどを、学級のルールとして決めておく 8) ・静かに聞く姿勢になってから話をする ・「相手を見て話す」「相手を見て聞く」などを学級のルールとして掲示して意識させる ・学級のルールをイラストなどでも示す ・話が聞き取れない児童生徒に対して、近くの児童生徒が教えるような支持的な関係をつくる	8) ・学級のルールは文章で示すだけでなく、イラストなどが入っているものを活用する